

9つの戦略領域①

- 研究主体を重要な社会的課題に向かわせる
 - 環境、エネルギー、医療、産業再生、宇宙など
 - 課題の抽出は、テーマ別研究連合、CNRS、CNESが行った
- 研究推進に必要な調整・方向付けを行う機能の再構築
 - 後述する研究戦略会議の設置など
- 技術研究の推進
 - KETsやFETsの特定と、ANRプログラムへの反映
- デジタル教育及びインフラの充実
 - 国の生産性向上のキーと位置づけ、独立した優先事項へ
- イノベーションと技術移転の促進
 - 国との共有知財制度のシンプル化、カルノーラベル研究機関の強化、起業支援プログラムの立ち上げ、など

9つの戦略領域②

- 科学文化の涵養
 - 研究の透明性向上、社会的な理解の促進
- 研究・イノベーションの優先事項に基づいたプログラム策定
 - ANRミッションの修正（テーマ別研究連合との連携・欧州との補完性を意識したプログラム設計、手続きの簡素化）
- 研究主体の連携の強化
 - 政府と拠点（大学と研究機関の協約に依拠）間の契約導入
- ヨーロッパ・世界での、フランスのプレゼンスの向上
 - Horizon 2020参加者を支える組織(PCN)の設置
 - 欧州委員会フランス代表とのコミュニケーションの強化

研究戦略会議の設置

■ 研究戦略会議

- 優先事項の定期的な見直し(運営委員会の提案に基づいた意思決定)
- 首相直下に置かれ、高等教育・研究大臣に運営を委任
- 学術界・財界代表等12～15人の成員。年に1～2回の開催

■ 運営委員会

- 高等教育・研究省の研究イノベーション総局内に設置
- テーマ別研究連合、CNRS、CRESの長など12～16人の成員

■ 組織構成に起こる変化

- 科学技術高等評議会(HCST)、研究技術高等会議(CSRT)の廃止
- 戦略策定を司る階層構造の明確化

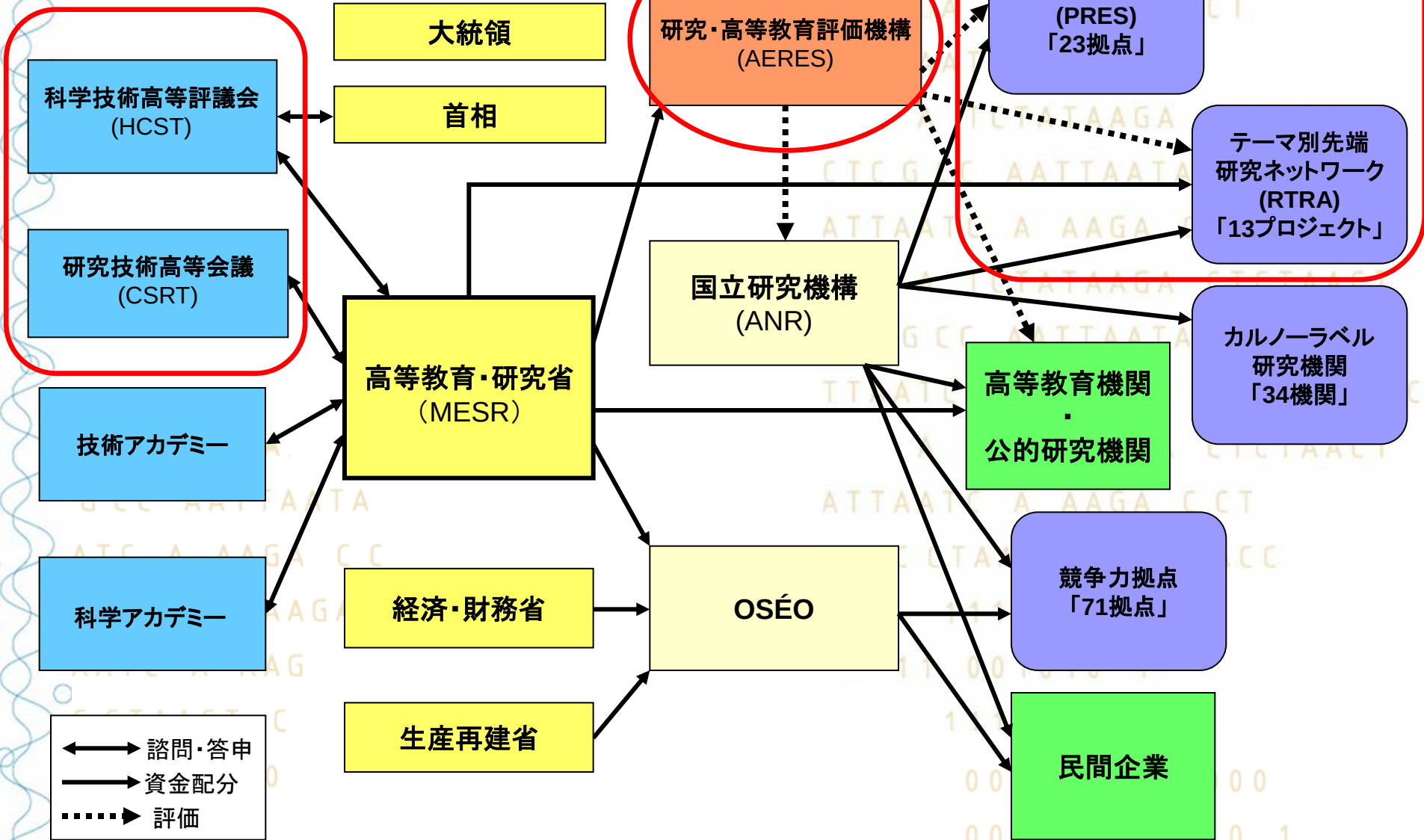
高等教育・研究評価のための組織の再編

- 研究・高等教育評価のための高等評議会の(HCERES)設立
 - AERESを廃止し、HCERESへ
 - いずれも独立行政組織で同等
 - HCERESの特徴
 - 科学的な専門性と国際水準の倫理観により高等教育・研究全般の評価を実施
 - 海外で研究主体を評価するのにも用いられる、一貫した評価の基準を適用
 - 研究機関等の自己評価を行うための手法を開発し、各主体の活動の質向上に貢献
- これまでの第三者評価の形から、各機関による自己評価を第三者が認証する形へと変化

研究推進体制の整備・単純化

- 現在の複雑な研究推進体制
 - プログラムごとに名称の異なった連携拠点が乱立
 - それぞれの役割分担は、必ずしも明確でない
- 研究推進体制の整備・単純化
 - PRES(研究・高等教育拠点)、RTRA(テーマ別先端研究ネットワーク)、CTRS(テーマ別医療研究センター)の廃止
 - 地域ごとの研究コミュニティ(EPSCP)への再編成
- 単純化により何をを目指すか
 - 国の研究戦略の浸透を助ける
 - 研究システムの透明性を高める→国際的な魅力の向上
 - 国内組織間の競争から国内の連携環境の強化へ

再編前の組織構成



諮問機関

行政機関

配分機関・評価機関

実施機関・プログラム

再編後の組織構成

